

「心の杖」

第3組 憶念寺 土岐 康代

「宗教」と聞いてどんなことを連想されるでしょう。近頃では、その言葉にあまり良い印象を持たれないかもしれません。一般的には、神様や仏様に「お願いをする」という感じでしょうか。

しかし、よくよく考えてみれば、ほとんどが自分勝手なお願いばかりなのです。「あしめて欲しい。」・「こうして欲しい。」・「合格しますように。」・「儲かりますように。」・「ピンピンコロリ逝けますように。」もし、それがすべて叶うならば「宗教」は必要ありません。何一つ思い通りにならない、願いが叶わない、そんな「わがままな私」だからこそ「宗教」は必要なのでしょう。

嫌いな人はいますか。苦手な人は？つまり、自分の思い通りになる人は「いい人」で、そうでなければ居なくても「いい人」。結局、すべては私の都合です。そんな、わがままで自分勝手な私がお念仏を称えと、そこに仏様が働く。お念仏は修行ではなく、仏道だとお聞きしました。修行とは、人が目標・目的に向かって努力すること。仏道は仏様の働くこと。

ですから、声に出してお念仏を称えと、そのとき私の中で仏様が働きます。すると、駄目でどうしようもない「私」に、ほんの少しだけ光が射す。

お念仏は奇跡を起こしません。宝くじは当たりません。病気が治ることもありません。しかし、たとえそうだとした場合、そのことを受け入れて何とかやっていけるのがお念仏だと教わりました。

辛いとき、苦しいとき、腹が立つとき、他人（ひと）がうらやましいとき、妬まし

いとき、先が見えなくて転びそうなとき……。私の足元を照らし、支えとなるのが
お念仏です。こんな私が日々を生きる「心の杖」としてお念仏を携えていきたいと思っ
ます。